

# 2025年度いきいき地域連携推進会議 議事録

社会福祉法人よさのうみ福祉会

開催日時 2025年11月21日(金) 13時30分～15時25分  
開催場所 障害者支援施設いきいき 班活動室  
出席者 推進員 利用者  
推進員 利用者家族  
推進員 地域関係者 地元地域区長  
職員 管理者(佐野) 主任(杉本) 看護師(石田)

## 会議内容

\*管理者挨拶、参加者の自己紹介後、別紙次第のとおり会議を開催した。  
別紙資料に沿って管理者が説明を行った。

### (1) 地域連携推進会議について

厚生労働省による「地域連携推進会議の手引き」を基に説明を行った。

### (2) 施設の紹介

#### ◆施設の概要

施設の沿革・理念などを説明した。

#### ◆施設の事業内容

現在実施している「施設入所支援サービス」「生活介護サービス」「短期入所サービス」について説明を行った。

#### ◆利用者の状況

現利用者30名の男女・年齢別構成・障害支援区分の状況等について説明を行った。

#### ◆職員の状況

職員34名の職種別内訳・雇用形態・1日の勤務体制について説明を行った。

### (3) 利用者の日常生活の様子

日課・日中活動・行事・外出の取り組み・帰省の状況について説明を行った。

### (4) 施設の運営状況について

#### ◆障害福祉サービスの報酬制度

利用者が市町に障害福祉サービスの申請を行い、サービスを受け、施設が報酬を受けるまでの流れ、いきいき入所者3名(区分4.5.6)の1ヶ月の報酬額と内訳、負担費用として食事に係る経費(日額)・光熱水費に係る経費(月額)について説明を行った。

#### ◆財務・経営の状況

決算報告書(2022年度～2024年度)について説明し、2024年度の施設・就労会計の評価・課題について報告した。

#### ◆施設が抱える課題

利用者の方の高齢化への対応として施設整備や職員のスキルアップ、変形変則勤務の職員確保の厳しい状況、開所28年が経過する中で施設設備の老朽化等について報告した。

(5)利用者の権利擁護の取り組み

◆苦情受付制度

法人苦情対応規程に基づく、苦情受付・苦情解決のしくみや苦情受付状況について説明を行った。

(6)防災対策について

◆防災計画について

BCP(事業継続計画)・非常災害計画・土砂災害対応マニュアルについて説明を行った。

◆避難訓練について

年2回、通常火災・地震火災避難訓練の実施状況や夜間消防訓練の実施・地域との連携が課題となっていることを説明した。

(7)虐待防止・身体拘束適正化委員会の取り組み

開催状況(頻度や内容)について説明を行った。利用者1名の方に身体拘束に該当する身体の安全を維持するための車椅子の固定ベルトの着用を同意書・個別支援計画への記載などの必要な手続き、日々の記録をつけ、行なっていることを説明した。

(8)意見交換

《地域関係者》

・各事業所は独立採算ですか？

→事業所ごとに決算している。

・与謝野町からの物価高騰などの利用者への給付金は直接事業所に入るのか？利用者各個人か？

→給付金は施設が請求実務をして、預かっている利用者の通帳に入金している。

・個人の状態によって施設に入ってくる報酬が違うようだがそれは事業所に入るのか？

→代理受領として事業所に入る。

・よさのうみ福祉会は？

→法人本部は事業をしていなのでそれぞれの事業所の収益の中から繰り入れている。本部も決算をしている。

・昨年グループホームが出来たが備品等のために支える会(後援会)が 300 万寄附をされた。内容はわからないが何故よさのうみ福祉会でそれらを準備しないのか？

→事業所が増え、法人の規模も大きくなっているが、支える会(後援会)から頂いた寄附を活用している。よさのうみ福祉会全体では各事業所の収益を繰り入れて改修費や新しい事業をする時のための資金として積立金をおこなっている。

・職員の忙しさのなかで何が出来るのか？例えば避難訓練をするにしても形式的にやりましたくらいしか出来ないと思う。以前施設を見せてもらった時に非常口に鍵をしていて利用者さんの安全のためにしていることが仇となることではないかと思った。この施設は袋小路になっているので、避難する時に順路があるなど手立てが必要だと思う。

地域連携推進会議は少人数で行うとなれば心構えも必要で周知徹底も必要なのではないかと。地域連携推進会議といっても現場をわからない人(厚労省)が作るのもやられている感がある？

→入所施設は第三者の目が入りにくく、閉鎖的なところがあるので外部の人が入ることで風通しがよくなる。利用者や施設のことも理解してもらい、間係がつくれるのは有難い事だと思う。

・障害者施設は第三者に理解してもらわないといけないが、日々では良いことを言うが実際、施設に見学に行くことがないと思う。なのでイベントがあればイベントの中で知ってもらうことが大切。地

域の人と連携をするといってもどういうふうに連携するのか。地域の文化祭などがあっても一年に1回のこと。来月支える会(後援会)主催の着物バザーを予定しているが1回だけではなく継続して行わないといけない。若い人にも興味を持ってもらわないといけない。従来の着物バザーでは機能していないので、リメイクをしてやることにした。

以前物品販売を行う時に職員が約100名いると聞いた。一人1個何か作って販売し、当たれば儲けものだと話した記憶がある。何かを事業化するのに今年度支える会(後援会)に事業部ができて目標額を決めた。なかなか商売に結び付かないが・・・

利用者さんは作業をととても根気よく取り組まれていて感心している。楽しく作業をするには余暇の充実も大切なのではないか？自分も頑張って仕事をして「あーあ、ビールおいしいな」と一生懸命になる、仕事を頑張った対価が大事。利用者の仕事も個々に出来る力が違うのでなかなか難しいところがあるのかもしれないが、現在の物品販売は仕入れた品物を取り扱っているので収益が上がらないのではないか？出来る人で何かできることを行って収益に結びつけて欲しい。

・いきいきは外出の計画があるのか？

→来年日帰り旅行を予定している。数年前までは宿泊旅行があったがコロナの関係で中止していた。支える会(後援会)からも援助金を出してもらっている。

#### 《利用者家族》

・(利用者に対して)仕事は楽しいですか？職員さんは手伝ってくれていますか？私は内職をしている時に他法人の職員が材料をひとりで取りに来られていた。作業所での内職は実際利用者ではなく職員さんがしていると聞いたことがあったのでどうなのかな？と思った。楽しく作業をされているのなら良かったと思う。実際お仕事をしても利用者さんが出来ないとなれば、それならば・・・ということで職員がやっているのかなと思っていた。

→(利用者)楽しいです。私は見守りと検品をしています。検品は他の利用者は誰もしたがないので私が職員としている。

#### 《利用者》

・今年でいきいきに28年います。もっと外に出られたらいいと思う。自分の好きな物があってゲームや本が買いたい。以前は自転車に乗って外出できていたが今は自転車にも乗れなくなったし、乗って出かけたらいきいきに帰って来られなくなるかもしれない。

#### 《看護師》

・昔はいきいきや岩屋地区で交流があったのか？

→福祉の里まつりがあり、虹ヶ丘と共同で開催していた。蕎麦うちをしたことがあった。